

## 平成 30 年度 学校関係者評価報告書

名古屋学園 名古屋情報専門学校

### 【学校目標】

- ① 学校教育の質の向上及びその維持
- ② 教員の実務卓越性を視野に入れ企業との研修の連携
- ③ 進路決定率 100% を目標
- ④ 中学校・高校・保護者の信頼に応えられる学校作り
- ⑤ 地域住民・企業との文化的協力・交流の促進

### 【委員からの学校評価に対する意見・回答】

- ・学校の特性上、情報処理教育の向上も重要課題であるが、それ以前のキャリア教育が大事である。
- ・情報技術分野に限らず製造業、サービス業、福祉関係など幅広い職種での就業力を養うことが必要
- ・進路決定率の数字よりも本人、保護者の理解、満足度はどうであったか。
- ・教員研修の方法については職場体験に教員も派遣し、同じ作業のプログラムを行い、経験の積み重ねを行う。これをその後の指導にもフィードバックする。  
また、企業連携の科目の授業や実習にも参加し、今後の授業にも役立てる。  
ITベンダーや企業が主宰するセミナーや資格試験を受験できるように学校が経済的にもバックアップしている。  
職員に必要と思われる講習会は学校側で指名して参加させたりしている。
- ・学生の資格取得率の向上には課外での補習を行い合格率の向上を図っている。  
他校や全国的なデータと比較するのではなく本人の力量を考慮し努力目標を立てさせそれをクリアすることに重点を置いている。
- ・入学生数は毎年の目標を上回っており、職員が同じ目標を持ち、よく努力しているのが分かる。
- ・今後の少子化問題で私学においては更に厳しい環境となるが、その対策についてはどうか。
- ・ジョブトレーニング室を増築し、ジョブトレーニングの連携企業も増えた。平成 30 年度からは、職業実践セミナー（モノ作り編）に加えて、職業実践セミナー（IT編）も開講する。体感・実践教育のさらなる充実を図っていき、企業が求める人材の育成を目指し魅力ある学校作りを行っていく。また、これらの取り組みが進路決定率の向上につながっており、学校の魅力の一つでもあると考える。
- ・退学者が年度によっては多い年がある。その理由と対策は。
- ・経済的理由による退学が最も多い。それらの理由から学園独自の奨学金制度を整備し、学生の経済的負担を軽減できる体制とした。また、無理のない外部の奨学金制度の利用と計画を指導している。
- ・地域住民・企業との文化的協力・交流の促進とは具体的にどのような活動をしているのか。
- ・社会貢献については近隣企業の方々と大高緑地公園や学校近辺の市街地の清掃、有松駅駐輪場の

自転車整理などを行い、地域の環境・美化に努めている。このボランティア活動には企業からも賛同をいただき清掃用具などの寄付も受けている。

【学校自己評価報告書について】

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取り組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準 1 (教育理念・目的等)	4.2	3.9	3.9
基準 2 (学校運営)	3.8	3.7	3.9
基準 3 (教育活動)	4.0	4.0	4.0
基準 4 (教育成果)	3.5	3.5	3.7
基準 5 (生徒支援)	3.8	3.8	3.8
基準 6 (教育環境)	3.4	3.8	4.0
基準 7 (生徒募集と受け入れ)	3.6	3.4	3.5
基準 8 (財務)	4.0	4.0	4.0
基準 9 (法令等の遵守)	4.5	4.5	4.5
基準 10 (社会貢献)	3.7	3.5	3.6

【委員からの改善意見】

- ・ 教育理念は学園創立以来から継承されているもので、良いと思う。
- ・ 職務分掌が固定化されている部分もある。見直しても良いのではないかな。
- ・ 教育活動は年々改善されていると思うが万全とは言い難い。
- ・ 教育成果については平成 29 年度に進路決定の面で高い実績を残せた。  
今年度についても昨年度同様の実績が残せるか。  
資格取得では良い結果が得られていない。これをどうするのか。
- ・ 学生支援では特待生制度の充実を図り、大きな成果を上げている。  
就職についても企業とのパイプも増え良い方向に向いている。  
担当者だけに任せるのではなく、学校全体でサポートする体制を築かなければ  
ならないのではないかな。  
日本学生支援機構などの公的制度の活用についてもアルバイトと併用し将来の本人の返済額の負担を減らせるように相談窓口を設けていることは評価できる。
- ・ 学生募集について今後の見通しはどうか。
- ・ 財務は収支報告書を見た限りでは財政基盤は安定している。  
しかし 18 歳人口の減少が確実視されている中、人件費比率や諸経費の削減などの対策はどうか。
- ・ 法令などの遵守は確実に行われている。今後も期待する。
- ・ 社会貢献について報告を聞いたが、他に計画していることはあるのか。

### 【次年度からの改善点】

- ・学校運営の点で職務分掌はより適材適所を念頭において計画したい。
- ・進路決定率は目標を概ね達成できた。今年度も学校全体で指導に取り組み、100%を目指す。  
残念ながら若干の退学者が出たことについては原因の究明とそれに対する対策を十分施したい。  
資格取得では合格率が低かったため、補習の強化など年間計画を建てて取り組んでいる。
- ・教育環境についてはジョブトレーニングセンターを増築する。製造業希望者のための職業訓練をより推進できると考えている。また、研修棟には教室を2部屋設け、2部屋ともに無線LANを設置することで学習環境を充実させる。
- ・学生募集と受け入れは高等課程・専門課程の間で年間数回の募集会議を行い、また体験入学や相談会など細かく連携して計画を建てている。  
毎年、予定通りの学生募集ができています。  
今後はさらなる教育内容の充実を図り、より円滑な学生募集を目指したい。
- ・財務状況については現在安定しているが、18歳人口の減少などいつかは厳しい時代が来るのは確実である。給与形態の見直しや、さらなる経費削減方法の検討を行っている。  
また、中・長期的な採用計画を建てている。
- ・法令遵守の点では特に個人情報保護や不正アクセス、情報漏えいなどの防止の徹底のため、管理責任者を設け、またハード、ソフト両面でのバックアップも図っている。  
さらに夏期職員研修で職員全員の意識向上を図っている。